

水戸殉難者恩光碑保存会 会報

知恩 第四号

水戸藩国事殉難者慰霊祭 報告

現地慰霊実行委員会

委員長 朝比奈泰仁

事務局 川上有文

平成20年10月6日、計画中の水戸藩諸生派壊滅の地・千葉県匝瑳市八日市場中台において現地慰霊祭を挙行致しました。

明治元年「1868年」、140年前、10月6日・この日、当地・八日市場松山台地に於いて、水戸藩諸生派・市川勢は水戸藩天狗党・追討軍と激戦の末、諸生派は全員戦死して壊滅し水戸藩戊辰戦争・天狗党諸生派の党争は終結致しました。その後、戦後処理は、地元の方々により、当地・脱走塚に埋葬され、碑を建て今日まで手厚く供養されています。私どもは、地元の方々により深く感謝申し上げます。

平成20年10月6日当日、水戸藩国事殉難者「水戸藩諸生派戦死者」墓前の慰霊祭には、匝瑳市及び水戸か

らのご来賓列席のもと、多くの方々にご参列頂きまして重ねて感謝申し上げます。泉下の殉難者も喜んでいと思います。

当日の慰霊祭の状況について、ご報告致します。

水戸を出発 午前8:10→11時頃に八日市場図書館に到着、休憩の後。

1 古戦場跡見学

1 福善寺 無名戦死者慰霊参拝

2 大松庚申塚 天狗党陣所見学

3 大阪 両軍戦闘場所見学

4 龍性院 諸生派陣所見学

5 中台コミュニティセンターに到着

2 感謝状贈呈式と昼食会

1 会長 の挨拶

2 匝瑳市長のご挨拶

3 水戸市議会議長のご挨拶

4 匝瑳市議会議長のご挨拶

5 水戸市長メッセージ朗読

6 感謝状贈呈式（別項参照）

7 市村社長より記念品贈呈

8 昼食会 地元の方々で交流

3 水戸藩国事殉難者慰霊式典

1 読経 祇園寺住職

2 追悼のことば 会長

3 弔魂碑・碑文朗読 副会長

4 焼香・参拝

来賓

参列者

5 記念植樹 銘木・「水戸の梅」

征夷大将軍徳川家康公の

① 家康梅

水戸第二代藩主徳川光圀公の

② 黄門枝垂れ梅

水戸第九代藩主徳川斉昭公の

③ 烈公梅

6 記念写真撮影

4 式典終了後寺院墓地を供養訪問

1 安養寺 鈴木欽一郎の墓慰霊参拝

2 良福寺 大森金六郎の墓慰霊参拝

各寺院墓所慰霊参拝の後、帰路に就く

水戸駅南 到着午後7時半

全員無事、本日の慰霊行事を終了することができました。

本・慰霊祭に、悪天候「雨」にも、関わらず、ご参加下さいました皆様

のご協力、及び匝瑳市八日市場地元の皆様のご協力により、百四十年忌

慰霊祭を終了することができました。

心より厚く御礼申し上げます。

尚、地元の方々より戴きました手記

や聞き書きを別項に記載しご紹介致します。

地元の皆様に重ねて厚く御礼を申し上げます

左

昭和41年 百年祭式典
水戸藩町奉行富田理助
敏行・孫大中こう氏建立

中央

地元有志建立
水戸藩志士弔魂碑
朝比奈知泉 撰文
大正15年 除幕式
水戸藩諸生派子孫朝比奈
知泉先生と地元有志建立
百年祭祀記念碑

右

戦死25人の墓
明治2年
千葉県匝瑳市八日市場中台
水戸藩国事殉難者埋葬の地
現地名 脱走塚



明治22年の東海新報
新聞記事より
水戸藩脱走隊21回忌供養・法会

「東海新報」(明治22年5月30日付)
には「水戸藩脱走隊の法会」と題し、
次のように報じられた。

「明治元年(1868)10月5日、
磯の浜の一戦に敗を取りて、其翌六
日の昼頃匝瑳郡八日市場村即ち今の
福岡町に通れ来たりたる水戸の浪士
朝比奈弥太郎氏外百余名が喫飯の最
中、追手の将・尼子扇之助は数百の
兵を率いて追い掛け来たり。同村福
岡台に於いて花々敷戦ありしが、そ
の時、朝比奈氏外24名は遂に戦死せ
し。今は只25人の塚の残るのみなる
が、本年は恰も21回忌に当たれるを
以て、同町見徳寺住職・角田頼恵、
福善寺住職・秋山澄栄の2師の唱導
にて、去る26日右の「25人塚」に於
いて法会を営み、群衆の者へは三池
照鳳師より紅白の餅をおびたしく
投与し広き古戦場も当日は非常の賑
いにてありしといふ」。

「水戸藩脱走隊の法会」が執り行われ
た。

明治2年供養塔が建てられた後、
中台村の人たちは、折々にお参りし
たことだろう。

昭和41年10月14日
脱走塚百年祭が挙行される。

「脱走塚百年記念 松山戦争集録」

より 百年祭執行協賛会

会津から水戸に向かった市川勢は、
10月1日水戸城を占拠し、貞芳院を
擁して朝廷に恭順の意を表さんとし
たが、失敗し、更に多くの隊員を失
つて、銚子に向けて南下した。

南下の理由は当時の記録によれば、
1 北海道に渡り、榎本隊に合流する。
2 八丈島に渡り新王国を建設する。
3 東京に逃れ、再挙を図る。とある。

史談会で語った大子の郷士・黒崎
雄二氏によれば、松岸に上陸した一
隊は、高崎藩の松岸の船番所で、交
渉したが失敗し、飯岡↓小川↓八日
市場へ達し、福善寺に入り、ここで
今後の行動を協議した結果、解散に
決し所持金を分配して解散した。

1 交戦派

朝比奈市川等水戸藩士約40名、
松山・中台で交戦し全滅する

2 離散派

駿河・東京方面に逃れるが、
殆ど、千葉県内で捕縛されて、
殺害される

その後、水戸藩追撃隊による八日市
場町民に対する暴虐があった。

茨城新聞10月6日の新聞記事

感謝状贈呈式

水戸藩国事殉難者慰霊祭実行委員会
会長・大森信英 挨拶の後、
匝瑳市長・江波戸辰夫様よりご挨拶
を頂きました

匝瑳市長のご挨拶



「幕末維新の時、水戸には不幸な出来事だったが、」当市と歴史的なつながりができた。今後、大切に保存していきたい」とご挨拶がありました。

黄門桜「天然記念物・桜」
「八日市場市飯高字西の内に残る」
約300年前、

水戸黄門・徳川光圀公の意により
佐原から八日市場市飯高の飯高檀林
間に植えられた並木の櫻の内、この
天然記念物の桜が春ごとに見事な花
を咲かせている。

黄門様も飯高檀林「僧侶の学問所」
を視察に訪れたと言われています。
約140年前

幕末維新の時には、八日市場地域で
水戸藩諸生派と天狗党の戦いがあり
ました。

松山戦争（八日市場の戦い）という
約48年前 脱走塚を八日市場市・
史跡に指定する

この塚は、水戸藩諸生派戦没者を葬
った所であり、昭和35年3月30
日・八日市場市の指定史跡として、
大切に整備保存されています。

40年前

八日市場市と水戸市で脱走塚にて、
松山戦争百年祭を挙げる

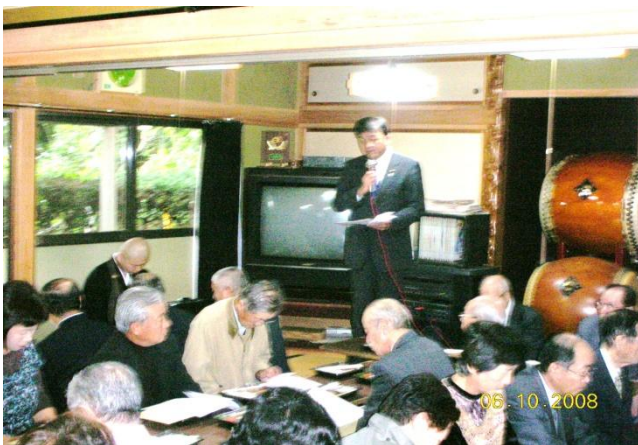
本年・平成20年10月6日
百四十年忌水戸藩国事殉難者慰霊祭
を挙行致しました。

銘木「水戸の梅」を記念に植樹致し
ました。

銘木・3種類

家康梅、黄門枝垂れ梅、烈公梅

水戸市議会議員・伊藤充朗様よりご
挨拶を頂きました。
伊藤議長のご挨拶



匝瑳市地元の方々の手厚い供養に
感謝の言葉を述べられて、「もつと
両市の友好を進めていきたい」とご
挨拶されました。

この後、匝瑳市議会議員・佐藤正雄
様より、ご挨拶がありました。

茨城新聞

平成20年10月13日

「いばらき春秋」欄に掲載記事より
千葉県匝瑳市に「脱走塚」という

市指定の史跡がある。大きなツバ
キの下に案内板が立ち、生け垣に
囲まれた中にお墓があり、風化防
止のため上屋が設けられている。
掻除が行き届き、供花が絶えない。
隣には石碑、誰を供養しているの
か、分かる人は相当の郷土史通う
だろう。▼幕末の水戸藩の内紛は
よく知られている、尊皇攘夷の天
狗派と佐幕の諸生派が苛烈を極め
た抗争を繰り広げた。その犠牲の
上に今がある。▼脱走塚の周辺は、
明治に改元された直後にあった
「松山戦争」（八日市場の戦い）の
戦場跡で、水戸藩の追討軍によつ
て諸生派が壊滅した地。ここには
二十五人の戦死者が埋葬された。
▼戦いのあった日にちなんで今月
六日、水戸から諸生派の子孫らが
参加して四十年ぶりに慰霊祭が行
われた。地域の人たちは首を長く
して待っていただろう。▼迷惑を
被ったはずの地元の人たちが百四
十年も手厚く供養を続けている。
出席した匝瑳市長や水戸市議会議
長らから、両市の交流を進めてい
きたいとの挨拶があった。▼天狗
諸生に限った話ではない。さまざま
な歴史的な縁を大切にして、各
地で交流が深まればいいと思う。

（広）

水戸市長からのメッセージ

水戸市長・加藤浩一様は公務多忙のため、ご参列されませんでした。水戸市長のメッセージを
本会副会長・蔭山二郎が代わりに朗読致しました。



水戸藩国事殉難者慰霊祭が執り行われるにあたりまして、謹んで哀悼の誠を捧げます。

松山戦争から百四十年の歳月が過

ぎ去りましたが、新たな時代を迎え、改めて苦難に満ちた往時を偲ぶとき、今なお、悲痛の思いが胸に迫って参ります。

激しい抗争の中で、多くの方々が故郷を思い、家族を案じながら戦場に倒れました。激動の幕末・明治維新の時代に、多くの血が流れ、豊かな才能が泡沫に帰してしまったことは、水戸にとつてのみならず、新たな国づくりを進めていた我が国にとり、とても大きな痛手となりました。

幕末期に示した時代の「魁」となる水戸人の生き方は、現代社会においても、なお、脈々と語り継がれ、現在の私たちの指標となっています。私たちは、現在享受している平和と繁栄が、先人たちの犠牲の上に築かれていたことを、ここに改めて深く心に刻み、平和で希望に満ち溢れた心豊かに暮らせる社会の実現のため、全力を尽くして参ります。

最後になりますが、匠瑤市の皆様には、心温まる手厚い供養を長年にわたり続けていただき、心からお礼申し上げます。御参列の皆様と共に在天の御霊の安らかならんことを心からお祈り申し上げ、祭文と致します。

平成二十年十月六日

水戸市長 加藤浩一

株式会社茨城プレスセンター

社長・市村眞一様より、匠瑤市の皆様に、記念品として、著書・「市川勢の軌跡」が代表の方に贈られました。



慶応4年3月から明治元年10月迄（9月改元）の諸生派市川勢の軌跡であります。

市村眞一様が現地を調査の上、写真入りで詳細に記述され名著あります。



感謝状贈呈

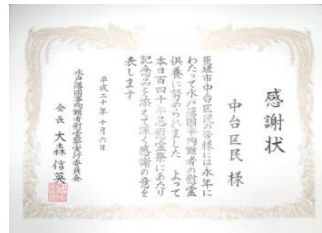
墓前の戦没者慰霊式典に先立ち、感謝状贈呈式において匝瑳市地元の6個人、団体の皆様に感謝状を贈りました
大森信英会長より手渡し、贈る



匝瑳市中台区 中台区民様
匝瑳市中台区 中台龍性院様
匝瑳市田久保区 田久保区民様
匝瑳市中台区 大木芳子様
匝瑳市中台区 今井徳治様
匝瑳市平木区 大木ヨシ子様

中台区民様

匝瑳市中台区民の皆様には永年にわたって水戸藩国事殉難者の慰霊供養に努められました。よって百四十年忌慰霊祭にあたり記念品を添えて深く感謝の意を表します
平成二十年十月六日
水戸藩国事殉難者慰霊祭実行委員会
会長 大森信英



中台龍性院様

匝瑳市中台龍性院様には永年にわたって水戸藩国事殉難者の慰霊供養に努められました。よって以下同文



田久保区民様

匝瑳市田久保区民の皆様には永年にわたって水戸藩国事殉難者の慰霊供養に努められました。よって以下同文



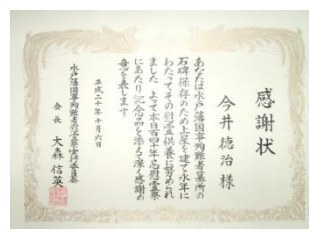
大木芳子様

あなたはご父祖の遺志を継ぎ永年にわたって水戸藩国事殉難者の墓地を守りその慰霊供養に努められました。よって以下同文



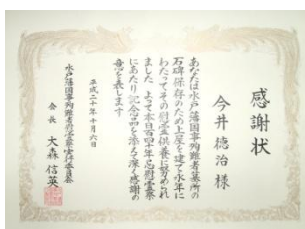
今井徳治様

あなたは水戸藩国事殉難者墓所の石碑保存のため上屋を建て永年にわたってその慰霊供養に努められました。よって以下同文



大木ヨシ子様

あなたは水戸藩国事殉難者大番頭鈴木欽一郎之墓を建立し永年にわたってその慰霊供養に努められました。よって以下同文



水戸藩国事殉難者慰霊祭・墓前式典 追悼文

本日、ここに、水戸藩国事殉難者慰霊祭を執り行うにあたり、遺族子孫並びに参列者を代表し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

水戸藩戊辰戦争・天狗諸生の闘争の終結から百四十年、当初、水戸藩主徳川慶篤公に上程した諸生派建言書の通り、国を思う一念より行動し、各地に転戦し、当地・八日市場が終焉の地となりました。それ以来「一〇年の歳月が過ぎ去りました。今なお往時を偲ぶ時、国のためとはいえ、故郷を離れ家族を思いながらも戦陣に斃れ家族に至るまで受難し、その結末は悲惨な状態となり、悲痛の極みであります。

幕末維新の激動期に、国の行く末を憂い国事に奔走し、北越会津水戸の各地で戦い、遂に、当地・八日市場松山戦争において、屍を各地の山野にさらし、多くの有為の人材が散華されましたことは、誠に残念であります。

元治元年・天狗党事件以来百四十五年、幕府崩壊により賊軍の立場になりましたが、政権がどう変わろうと、その忠誠心は、一貫して寸毫も変わることもなく、少しも恥ずるものはないと信ずるものであります。

次の歌は、諸生派領袖・水戸藩家老市川三左衛門の辞世であります。

「君ゆえに捨つる命は惜しまねど忠が不忠になるぞ悲しき」

当地戦没者の心情も同じであると推測するのであります。

亦、会津藩主・松平容保公の水戸市神応寺・諸生派慰霊碑の碑文の一節に、次のようにあります。

「何ぞ以て主恩に報ぜん、唯一死あるのみ、死各々其の所を異にするも、魂は同じく桑梓に帰す、いわんや藩祖の廟に近く、その志乃ち遂ぐ、地高くして松青く豊碑千祀に千祀に伝う」と。

戦没者の御魂は先祖代々の地・水戸に帰り、各地の殉難者の御魂と共に、水戸市に建立された徳川光圀公開基の祇園寺にある恩光無辺の碑にその名を刻み顕彰され供養されていることをご報告申し上げます。

更に当地戦没者については地元の皆様により心温まる手厚い供養を永年にわたり続けられ今日に至っていることを重ねてご報告申し上げます。

幕末維新の大転換期にあたり、事志と異なると雖も御魂の安らかならんことをお祈り申し上げます。

平成二十年十月六日
水戸藩国事殉難者慰霊祭

実行委員会 会長 大森信英

水戸藩諸生派壊滅の地にて
水戸藩諸生派戦死者を追悼する
水戸殉難者恩光碑保存会・慰霊祭実行委員会会長 大森信英
追悼文 朗読



明治2年 八日市場地元の方々に
より建立される
戦死25人墓 上屋内に石碑有り





水戸藩諸生派終焉の地
水戸藩国事殉難者埋葬の地にある

「水戸藩志士弔魂碑」文

朝比奈知泉 先生 撰文

本会理事 前沢瑞穂 口語訳

本会副会長 朝比奈光一 朗読

松山中台村は、徳川氏の時代幕府直轄に属していたその部下の士であつた中野定之助がここを取り締まっていた。明治維新の時、府藩県制を設け、幕府の領地に府県を置いた。両村合わせて宮谷県とした。柴山文平が県令に任じられた。地方の役人の名主を組長に改めた、大木三右衛門を中台組長に任じ、下山九兵衛を松山組長に任じた。佐助ご老人は、すなわち、三右衛門の嗣子である。この時、奥羽方面の戦いまだ続いており、水戸藩党争も燃え盛っていた。朝比奈泰尚とその跡継ぎの子泰寛、政布その嗣子政常、及び市川弘美ら兵を率い、明治元年3月水戸を出発して、幕府方の諸藩と共に、越後・会津で転戦し、9月水戸に帰り、城内の貞芳夫人に頼み、事情を訴えようとしたが、敵方に阻止され目的を果たせなかった。そこで場外の弘道館に陣を張り、天狗派と激しい砲撃戦となり、諸生軍健闘空しく遂に敗退する。

時に十月一日であつた。朝比奈泰尚、残りの兵を率いて、銚子より八日市場に出て六日朝、中台に向かった。敵、天狗派は多古街道を進み、松山台に向かつて来た。そこで両軍接戦となり、互いに砲を撃ち合い、それは午前十時から正午まで続いた。

諸生方のある者は、土地の人々の協力を頂き、主として砲で応戦した。ある者は死を覚悟しもはや弾もなくなり、抜刀し大声を挙げながら、帯刀している敵を追いかけるが、敵は味方の砲陣に隠れてしまい戦おうとしなかった。飛び散る弾丸雨霰の中に突入、諸生派遂に全滅する。

戦死体二十五あり。その一つには首がなくなっていた。戦いが終わった後、柴山県令は両村の村役に命じて、用水堀の水を掃い隅々まで搜索したが、遂に遺体を見つけることはできなかった。大木、下山両組長及び中台村長、山崎八郎兵衛、中台仁右衛門、松山村長、古関佐兵衛、関忠兵衛らが相談して、戦没二十五人の遺体をよく調べ、これらを葬り、碑を建てて祀り、供養にあたられた。この碑に、年の折々には土地の人々が線香を手向けて供養し、それは、今日まで続いている。

大正十四年四月、私は兄と弟、金三郎と、初めて戦いの跡を訪れた。大木佐助ご老人は、私たち兄弟を案内し、当時の戦跡を指差しながら、伝えられている戦いの様子など、詳しく説明してくださった。それによって、我が朝比奈家宗家父子の最期の様子をすることができた。

その遺体の中で首のなくなっている者は、確かに寛政布であると認めたという。しかし、彼の死が明らかにあったが、その首が水戸へ届けられたという話は聞いていない。このごろ、両村有志が相談して、弔魂を建てることになり、私にその碑文を書くように求められた。しかし、私は力の足りない者であり、どうしてこの大役を果たすことができようか、と迷ったが、私も朝比奈家の身内の一人であるので、有志の方のお求めに喜んで応じることにした。私の父、叔父、従兄弟にいたるまで、皆、国難で戦死してしまった。今、ご老人のお世話で、我が朝比奈家本家一族が奮闘し、その戦没の跡を詳しく知ることができた。大木佐助ご老人は、七十歳を超えていらつしやるが、お体は極めてご丈夫で、記憶力もしっかりしておられる。どうしてこのように強い心身を保つことができるのであろうか。私はご老人と当地の皆様への深い感謝の気持ちと、申しわけないという複雑な心情で、その場を容易に立ち去ることはできなかった。

戦没者の姓名を次に記す

弔魂碑裏面に彫られた諸生派戦没者の姓名

家老 朝比奈弥太郎泰尚
 小姓頭 朝比奈朝負泰彙
 家老 算助太夫政布
 同心頭 佐藤主税信好
 町奉行 佐藤貞之助
 富田理助敏行
 生井松次郎
 中間頭 橋本小三郎
 譜代同心 丹下齊藏
 大久保定藏
 大高孫兵衛
 山田惣次郎
 友部徳之介
 綿引隆三
 春山崇七
 鈴木欽一郎
 佐藤留男
 小十人目付 大嶺総七郎廣生
 河合子之吉
 上彦四郎
 小山金平
 小貫理三郎
 吉三郎
 安蔵
 清兵衛
 以下3名追彫されている
 斎藤新六郎盛至
 益子民部左衛門
 益子寛介
 郷士

(水戸市役所調べ より)

弔魂碑に彫られていない

八日市場松山周辺にて戦死した
 諸生派戦没者の姓名

最期の場所 及び墓地不明

青山惣七
 大高孫兵衛
 大高弥兵衛
 寛平十郎政常
 佐藤市之助
 佐藤亥之吉
 丹下乙吉
 丹下乙藏
 山田照七郎
 札田銀平
 雨口理郷
 佐藤留之介
 富田常之介
 生井秀三郎
 大嶺小太郎
 春山惣七
 大森金六郎
 銚子・良福寺

(水戸藩戊辰戦争・山県紘 著より)

諸生派戦没者の姓名

最期の場所 及び墓地不明

朝比奈千次郎泰成
 田山金平
 小松崎為次郎
 砂川熊吉



平成20年9月に
 脱走塚へ移転された蓮光院の
 藩士の墓



水戸藩国事殉難者埋葬の地
 (現地名・脱走塚墓地)
 25人の墓・上屋内の石碑



千葉県銚子市 良福寺
 水戸藩馬廻組大森金六郎の墓



千葉県匝瑳市 安養寺
 水戸藩大番頭鈴木欽一郎の墓

記念の植樹

水戸市

茂垣勝男様より
寄贈戴きました銘木・水戸の梅を、
水戸藩国事殉難者埋葬地に慰霊祭を
記念して植樹致しました。

征夷大將軍 徳川家康公・銘木
「家康梅」



「黄門」とは、中納言の唐名

水戸藩主は「従三位・権中納言」が
極官「最高の官職」

光圀公は元禄3年隠居してこの官職
を贈られる。「將軍の推薦による」

水戸藩

第2代水戸藩主 徳川光圀公・銘木
「黄門枝垂れ梅」



水戸藩

第9代水戸藩主 徳川斉昭公・銘木
「烈公梅」



昭和41年

水戸市が松山戦争百年祭を記念し
て植樹されました
100年祭記念「水戸の梅」
見事な花を咲かせています



水戸藩国事殉難者慰霊祭

平成20年10月6日参列者「順不同」

匠瑳市

同・市長

江波戸辰夫様

同・市議会議長

佐藤正雄様

同・市議会議員

山崎 剛様

同・龍性院

山崎 昭様

同・中台区長

山崎忠義様

同・教育委員会

依知川雅一様

同・中台地区

大木芳子様

同・中台地区

今井徳治様

同・平木地区

大木ヨシ子様

同・郷土史研究家

加瀬俊雄様

同・郷土史研究家

椎名 浩様

同・中台区代表

山崎省吾様ほか

水戸市

同・市議会議長

伊藤充朗様

同・事務局長

岩淵静香様

株式会社茨城プレスセンター

同・社長

市村眞一様

茨城新聞報道部長

沼田安広様

幕末維新水戸有志を偲ぶ会

同・事務局長

川上 清様

日立歴史研究会

同・会長

小浜一男様

同・理事

池田貞雄様

水戸殉難者恩光碑保存会

同・祇園寺住職

小原宜弘

同・会長

大森信英

同・副会長

蔭山二郎

同・副会長

朝比奈光一

同・現地慰霊祭実行委員及び会員

同・理事・委員長 朝比奈泰仁

同・理事・委員

清水光夫

同・々

前沢瑞穂

同・々

川上有文

同・々

綿引周一

同・々

大森信男

同・々

野沢 汎

同・々

平戸吉衛

同・々

戸祭勝文

同・々

一沢勝男

同・々

寛陽之助

同・会員

寛 せん

同・々

朝比奈泰孝

同・々

朝比奈泰忠

同・々

生井和夫

同・々

鈴木妙子

同・々

谷田部 一

同・々

岡見 薫

同・々

岡見京子

同・々

田崎 裕

同・々

野田幸重

同・々

今橋りえ

同・々

戸祭頼子

同・々

朝比奈みつ子

同・々

朝比奈清恵

同・々

小滝和子

同・々

谷田部良子

同・々

川上京子

同・々

佐々木サダ子

同・々

市川溪子

記念写真2L版 掲載

平成14年11月

「広報ようかいちば」

市史こぼれ話

匝瑳市八日市場・社会教育課

脱走塚を守る

歴史的遺跡や遺物は、それらの持つ意義や価値観を知ったり、感じたりする人たちによって保護され、守り継がれています。

今回紹介する市指定史跡「脱走塚」も地域の人たちによって、その由緒にふさわしいかたちで守り伝えられているといえましょう。

脱走塚は、1868年(明治元年)十一月十九日(当時の歴・旧歴では十月六日)の松山戦争で戦死した水戸藩士を地元松山村、中台村の人たちによって埋葬した墓地のことをいいます。

水戸藩内部抗争の最終戦がこの地を舞台にくり広げられ、多くの被害や恐怖を周辺村むらにも及ぼしました。戦後処理は、中台・松山両村の人びとに課せられました。

新政府は、同年九月に元号を慶応から明治と改めました。また、藩は残り、近くの多古藩(多古町)にその処理を命じ、遺体の埋葬などは両村の村役人などが行い、その翌年に「戦死二十五人の墓」が建てられ、

両村によって供養されたと考えられます。

記録をたどると、1889年

(明治22年5月26日)松山戦争

の戦死者の21回忌法要が、福岡町(のちに八日市場町)の見徳寺、福善寺住職によって営まれ、群衆の者に紅白のもちを投げ「広き古戦場(脱走塚)も当日は非常のにぎわいにてありし」と、当時の新聞で報じられました。

次いで、1926年(大正15年)

に当時の朝日新聞記者であった水戸藩・諸生党の子孫、朝比奈知泉(あさひなちせん)らによって脱走塚に供養碑が建てられました。この供養には、水戸藩士の子孫も加わったよう、当時のことがくわしくわからないのが残念です。

この碑文の中で、中台村大木三右衛門、山崎八郎兵衛、中台仁右衛門、松山村下山九兵衛、古閑佐兵衛、関忠兵衛、らによって、遺体が埋葬されたとあります。

そして、昭和41年10月に、

水戸市(茨城県)と本市(八日市場市・現匝瑳市)とで松山戦争百年祭が催されました。

脱走塚を守り伝えるという当地域の人たちの心情は、「年月を経ても供花や線香が絶えない」と大正期の碑

文に見られるように大木九郎(故人)さん、現在では大木正男さんご夫妻によって受け継がれています。

平成20年7月・現在は大木芳子さんが夫の遺志を継いで脱走塚墓所を守り供養されております

供養の経過 まとめ

明治元年 全員戦死

水戸藩諸生派藩士戦死

諸生派壊滅する

明治2年 25人戦死の墓

地元有志による建墓

明治22年 21回忌法要

見徳寺、福善寺により法要

大正15年 弔英魂碑 除幕式

朝比奈知泉ら子孫

地元有志により建碑

昭和41年 百年祭

八日市場市と水戸市の主催により百年祭を挙げる

水戸の梅 植樹する

平成20年 140年忌慰霊祭

水戸殉難者恩光碑保存会「慰霊祭実行委員会」主催により

水戸藩国事殉難者慰霊祭を

挙げる

銘木・水戸の梅を植樹する

明治2年5月 戦死25人の墓



大正15年11月10日
弔英魂碑 朝比奈知泉 撰文



昭和41年10月14日 建碑
水戸藩国事殉難者百年祭記念



松山戦争「八日市場の戦い」

「落武者の墓」

匠瑤市文化財研究会・加瀬俊雄様
よりの寄稿文

匠瑤市田久保、蓮光院境内の片隅に松山戦争、落武者の首塚がひっそりと眠っておった。

墓上の石碑には、**（梵連山道快信士）**左側面には明治元年戊辰10月6日「現在は11月19日」の文字が刻まれる。此の10月6日が松山戦争の当日で、大きな証しとなります。

そして奇遇と思えることは、弘化2年「1821年前」建立の**（延生地蔵）**に一步下がって並んでおった。さぞや、地蔵に手を取られ一人霊界に導かれることであろうと思われる。そして、どなたが手向けたか、一輪の花に胸をうたれた。

戦いに敗れ敗走した諸生派の落武者は千葉方面をめざしたであろう。脱走塚を逃れ富岡を過ぎ飯の森にさしかかった時、戦鬨で深手を負った3名は息絶える。友の死を見て思案にくれるが、追手は迫って来る。そこで、友の首を「刎ねて」逃げて来た。2名は飯倉小学校となりの「不動院へ」。（今状は集会所となり寺の面影は無く、石塔が若干散乱してある、歴史は風化する。）千葉を目指す敗走者は、友の首を持ち、逃れて来

たが、重い首を持つては逃げきれぬと考えた。そこで、田久保集落まで来た時、村の竹やぶの中へ置いて逃れて行く。それを村人が見ておった。

「なぜ蓮光院に首塚」があるかと考えて見ると、（松山戦争の敗者諸生派が西を目指して落ち延びて行く時に田久保集落まで来て寺の下竹やぶへ首を置いて行くと村人は語る。

此の日の松山戦争は当地方では、鉄砲音が激しく又駆け足で逃れて行く音を聞く）と古老が語っておった。

「墓地について特筆すべき事」

一般的に考えられるのは、氏素性の分らぬ者は無縁仏として葬られ、墓印として小石や小枝を一個置く程度である。僧侶に依頼して「戒名をもらい祈禱して、石碑を建て供養をした」。立派なことでした。

此の石塔の台座に有る氏名が施主であるう。台座の氏名を調べると、田久保、新村、木積、富岡の数名が読める。

さぞや、若年で無縁仏となったとはいえ、霊魂も地下にて、さぞや安らかに永眠しておることでしょう。

特に、本日は、140年間一人で淋しかった想いが、古里の知人や、関係者が尋ねて来て供養して下されるので安眠して下され、歴史の表面、世に出ることが出来ます。

此の件に関しては私の悲願でした。
有難うございます。
平成20年5月 記 合掌

匠瑤市田久保区・蓮光院境内

加瀬俊雄氏

右側

落武者の墓碑

中央

延生地蔵碑

左側「屋根の下」



平成20年10月6日水戸藩国事殉難者慰霊祭にあたり、田久保区・蓮光院にあったこの墓を水戸藩国事殉難者埋葬地「脱走塚墓所」に移転・改葬して、多くの戦死者と共に供養することになりました。

両軍戦闘の地「松山村・中台村」
松山・中台台地・↓富岡↓飯の森
↓田久保集落
戦場を逃れこの森を通り田久保へ
この地・富岡を通り逃れる



富岡

重傷の身で逃れて来たが
飯の森で3名が落命する



飯の森

田久保に3名の首を置き逃れる



田久保集落

生存者は更に千葉方面に逃れ行く

「斬られ様」について 寄稿文

匠瑳市 南波鹿子様 記

匠瑳市 南波鹿子様の手記より
ご協力 八日市場市大川秋嘉様
今泉 林 静 様

明治元年会津城が落ち、奥羽地方も鎮定し、水戸藩から加勢に行つた市川三左衛門、朝比奈弥太郎引率の佐幕党员百余名は、藩のために尽くしたという誇らしい気持ちで帰藩した。所が水戸藩は勤皇党に変わつていて、歓迎されるどころか追い出されてしまった。仕方なく利根川を下り、浜伝えに八日市場方面に上つた。現国保病院東北に着くや追つて来た勤皇党と戦争となり朝比奈以下25名戦死し、中台に葬られ脱走塚と称す。残党は刀傷を負い乍ら野手方面に下り、現野栄町役場東側に待ち伏せ勤皇党と戦争、14名戦死、尚も、市川三左衛門以下の残党は、光町方面へと逃げのび、それぞれ変装し何処かへ落ちたという。置き去られた屍は、今泉地区の人々に厚く葬られ現野栄町東側に「斬られ様」と称され、碑も建てられた。参詣人も多かったという。勤皇党佐幕党の戦争跡である。今から百二十八年前の明治夜明け前のでき事であった。

平成8年 南波鹿子 紀

南波様より聞き書・加瀬俊雄様 記

平成20年7月10日 先生曰く

私は80歳、生家は野手旧村大根畑父石橋緒右衛門 旧学校教師 現在茶道の師として生徒と共に楽しむ。

①松山戦争にて諸生派敗れ敗走者は野手村に逃れて来て、民家に一夜泊り、数名はそのまま西を目指し逃れ、「衣服を貰い受け平服に着替えて逃れ行く。代替えに刀剣を置き残したと言われる。残った数名が追つて来た天狗派に首を打ち取られる。

②「斬られ様」と称され、地元では石碑を建て供養した。

③水戸藩士松山戦争脱走塚百年慰霊祭にも、この場所へ来て供養すると語る。

④此の記について南波先生は、郷土史の研究に熱心でいろいろの人々の聞き学や、書物記録を調べ、現場に足を運んで書したと語る。

建碑の場所は、現状は昭和40年代に土地改良耕地整理により田畑の姿が変わり、現状では、当時の面影はなく、場所の特定はできません。現在はこの辺の土地を「きられさま」という小字「こあざ」のように呼んでいる。ここに諸生派13名が戦死・葬られている。

歴史は風化すると言う言葉が現実になる。

匠瑳市安養寺に埋葬された水戸藩・大番頭・鈴木欽一郎の墓について、

明治元年10月6日に、「松山戦争」と言われる水戸藩諸生派と水戸藩天狗党の決戦が八日市場松山台で展開されました。その結果、諸生派は大多数が戦死し壊滅しました。戦後、落武者狩りの厳しい中、鈴木欽一郎は戦場を離れて、負傷の身を旅籠・吾妻屋に寄せ潜んでいた。

天狗党は決選後、10月10日まで八日市場町に滞在し、落武者を捕縛すべく徹底的に搜索していた。又、此の間、八日市場町民に対し金品強要乱暴狼藉等暴虐の限りを尽くしていた。

間もなく、鈴木欽一郎の吾妻屋宿泊は人の知る所となり又天狗党も知る所となり、負傷の身を天狗党に捕縛され、近所にある安養寺に連行され斬られたと言われている。

旅籠吾妻屋の関係者である大木家は先祖が武家の出であり、水戸藩の状況を知るにつれて、水戸市役所を訪問、鈴木欽一郎が水戸藩士で八日市場で戦死された事を確認し、彼の忠誠心、武士道精神に感ずる所があり、永年にわたる諸々の事情に想いを致し、建碑供養を計画、当主大木茂氏は志半ばにして永眠、その志を引き継いで、夫人大木ヨシ子さんが平成元年に殉難の地である安養寺の境内に石碑を建て、手厚く供養されています。

大木家は神葬祭なので、寺院の境内ではあるが「戒名」はつけないで、石碑には俗名を彫り供養されている。

（水戸藩大番頭鈴木欽一郎之墓）

平成20年10月6日水戸藩諸生派戦死者墓前に於いて匠瑳市の方々、郷里・水戸市の方々が、参列し「水戸藩国事殉難者慰霊祭」が執り行われると聞いています。

永い間、一人で淋しかったであろう。古里の関係者が参り慰霊行事が行なわれるので、さぞ鈴木欽一郎命も泉下で喜んでいるであろうと思います。

匠瑳市加瀬俊雄様より聞き書き
平成20年7月15日（川上・記）
安養寺にある鈴木欽一郎之墓



墓碑

聞書・松山戦争 語る人・大木緑氏

大木緑氏は、明治28年10月20日生まれ。松山戦争を見聞した世代と歴史を共にした人である。住まいは八日市場市木積（旧匠瑤村）で松山中台の古戦場は間近かの所である。氏は豊栄村村長、八日市場市議会議員を歴任した。

明治元年10月頃、天狗派に敗れて江戸へ向かう諸生派は銚子から忍坂（現飯岡町）を下っていた。ここでも、両派の間で、小競りあいがあった、戦死者がでているのです。

諸生派は八日市場へ逃げて来て、福善寺へたてこもりました。あの頃諸生派は百人と言っていました。今となつては、はっきりした人数は分かりません。天狗派の方は、水戸から南へ来るにつれて、博徒が途中から加勢にきて、大変な人数になっていたのです。

その頃、八日市場に、深田長四郎という顔役がおった。当時は磯長といつて、今でも市内で呉服屋をやっている。この深田長四郎が、「福善寺で戦争をやられては困る。どうか立ち退いてくれ」と、町の人々を代表して、福善寺諸生派の所へ出かけて行ったのです。これに対して、市川らは「我々は寺から退却するから路銀を出してくれ」と言ってきた。諸

生派は逃げたくても金がなかったのだ。そこで、深田は、自分が百両、町の人々から二百両、合わせ手三百両を出して、ようやく諸生派に立ち退いてもらったのです。かくして、諸生派は山門に火をかけて松山台に退いたのです。

松山台で、追つて来た天狗派は、南に主力を置き、東、北の三方から諸生派を取り囲んでわずかに西だけあけておいた。これはその頃の戦争の常識で、敵を包囲した時には一方を必ずあけて敵の逃げ道を作り、味方の損失を少なくしたのです。

戦争は2時間続いた。ここでは朝比奈弥太郎（元執政）一族は、下僕に至るまで全員が死んでいます。彼らは朝比奈弥太郎に日頃から恩義を感じてのことでした。福善寺の住職に聞いてみると逃げきれなかった諸生派が三人いたが追つて来た天狗派のために寺で処刑されてしまった。この事は寺の書き物にも残っている。戦いに敗れた諸生派は栗山川（松山村の西六キロ）の江戸街道の新井渡しを通つて逃げたそうです。

豊栄村では、逃げきれなかった負傷者三名が死んでいる。この三人とも首がなかった。墓は飯倉（現小学校付近）に二体いっしょに埋められ、30年頃、私が豊栄の村長時代に、

駐在所からの要請で供養したことがある。今でも墓はあるだろう。

木積では、民家にかくれていた二人の諸生派が、二三日やっかいになつて、逃げて行った。この人たちの名前はわからない。二人は、自分の持つていた武器を民家に置いて、平服（百姓姿）に変装して逃げた、という話が伝えられている。

木積では、戦争が始まつて鉄砲の音がするし、福善寺が大火事なので、近くの人々は戦争を見に行ったといひます。この人たちは、逃げて来る諸生派五人に途中で出逢つたそうです。しかし農民に危害を加えず、新井渡しの方へ向かつて行ったそうです。これらの村の人々が、小さい頃の私たちに話を残してくれたのです。

松山台の25人の戦死者の首は、八日市場の桐屋旅館に本陣を置いていた尼子扇太郎（追討軍々将）の所へ送られました。そして本陣の前に並べられたそうです。この首をかついで行った村の人々は褒美を貰えると思つて運んだそうですが、「おまえたち、ごくろう」と言われただけです。こんな話も残っているのです。

八日市場にいた天狗派には、途中から加わつた不頼の者がいたので多少の被害はあった。近くの歌に「鐘は筑波の上にあり」というのが残つ

ている。つまり、八日市場の寺にあった鐘をはずして、売り飛ばしていった天狗派のことを唄っているのです。天狗派の持ち去つた鐘は天狗派の発生の地である筑波山に持つて行ったのだろう、という意味なのです。八日市場の天狗派は、ケットウという赤色の毛布を着用している者が多かった。また地元には諸生派の死骸から金を奪つて裕福になった人もいると言われている。三百両の金を分けて、持つたまの諸生派もいたのですから、そういうこともあったかもしれない。

脱走塚は、もとは簡単なものだった。旧道はもつとせまかつたが、今は改葬して広くしたものです。墓石の前に25穴あいたものがありますが、これは線香を立てる穴ではありません。村の人々が、諸生派を供養して、秋葉の実を上げたのです。秋葉の身は鉄砲玉の形をしています。（お前らが負けたのは、鉄砲玉が無かつたからだ。かわいそうに）という意味が込められているのです。おそらく、松山戦争を見聞した人から、話を伝えているのは、もう私一人になつていくでしょう。

（昭和55年6月15日談）

「水戸城址」幕末残照

原作・鈴木茂乃夫
作・前沢瑞穂

- 一 世に魁て開く梅
紅と白とに咲き分かれ
菊と葵の盾となる
誠は一つ 道二つ
- 二 報恩大事と決起せる
藩の宿老重臣も
故郷をあとに西東
我が子わが妻いかならむ
- 三 会津 新潟 出雲崎
戦野を駆ける草枕
佐渡が島より望しは
栄枯を映す郷里の月
- 四 同志会津の城は燃え
めざすは風雲水府城
されど守りの陣固く
勇む諸生の夢空し
- 五 ご三家藩士の名に恥じず
文武鍛えし学びやの
弘道館も今やはや
矢弾の中に煙りつつ
- 六 望み新たに下総へ
武運拙し松山戦
水府勇士の夢の跡

今 鎮魂の梅薫る

- 七 千卒万苦踏み越えし
報恩一途 門閥士
偲びて集い語る日の
落日寂し 水戸城址
- 八 血もて洗ひし同胞の
声かと紛う風蕭蕭
恩讐はるか去りし今
共に語らん水戸の史

水戸城二の丸 三階櫓古写真
昭和20年8月2日 戦災にて消失



水戸城 大手門
古写真



水戸城 大手橋



写真・奥の方に、水戸城大手門
があつた
弘道館正門と向き合っていた
弘道館 正門



脱走塚に想う(短歌二首)

平成二十年九月

匝瑳市箱田 渡辺重雄様

松山に

幕末志士の

碑の建ちて

絶えざる供花に

虫鳴きやまず

中台区民

秋彼岸会に

水戸藩の

二十五勇士の

卒塔婆建てつ

註

渡辺氏は、始めて脱走塚を訪れて感じたままに、この短歌を作りました。

氏は、元野栄町(匝瑳市野栄町)の文化会・短歌の趣味を共にする仲間のリーダーであり、自己の作品等も出版しております。

この短歌は、慰霊祭当日に、感謝状贈呈式を行った・中台コミュニティセンター広間の正面に達筆な文字で掲げられていました。

有難う御座います。

寄付の報告

平成20年4月1日～10月6日迄

慰霊祭挙行にあたり皆様より、
慰霊祭参加・会員会費（六千円也）
のほかに次の方々に御寄付を戴きま
したのでご報告致します

ご芳志厚く御礼申し上げます。

「ご芳名・順不同」

寄付金

一金参千円也 門井 貢様
一金貳千円也 吉田政弘様
一金六千円也 門井 貢様・
一金参千円也 大森泰夫様

慰霊祭・寄付金「来賓」

一金五千円也 江波戸辰夫様
一金五千円也 佐藤正雄様
一金五千円也 山崎 剛様
一金六千円也 市村眞一様
一金五千円也 室伏 勇様
一金六千円也 川上 清様
一金六千円也 小浜一男様
一金六千円也 池田貞雄様
慰霊祭・寄付金「役員」
一金四千円也 野沢 汎様
一金四千円也 前沢瑞穂様
一金四千円也 綿引周一様
一金四千円也 平戸吉衛様

一金四千円也 戸祭勝文様
一金四千円也 朝比奈光一様
一金四千円也 朝比奈泰仁様
一金四千円也 川上有文様
一金四千円也 大森信英様
一金四千円也 大森信男様
一金四千円也 清水光夫様
一金四千円也 蔭山二郎様
一金四千円也 一沢勝男様
一金四千円也 寛陽之助様

慰霊祭・特別寄付金

一金壹万円也 朝比奈泰仁様
一金壹万円也 大森信英様
一金壹万円也 清水テル様
一金壹万円也 野沢 汎様
一金四千円也 戸祭頼子様

合計 不参加者 140000円
合計 参加者 1440000円
総合計 1580000円

◎茂垣勝男様からは

銘木・水戸の梅
（家康梅、黄門しだれ梅、列公梅）
を寄贈戴き有難う御座いました。
ご芳志厚く御礼申し上げます。
多くの方々が「銘木」の生育、開花
を楽しみに期待しています

泉下の水戸藩諸生派戦死者も喜んで
いると思います
編集後記

○本号は、特に、現地慰霊祭・
匝瑳市八日市場・松山戦争戦死者
供養行事を特集しました。
地元の皆様の手記や寄稿文を本号
に掲載しご紹介させて頂きました。
少しでもご参考になれば幸甚に思
います。

地元の皆様の水戸藩諸生派戦死者
供養の心情に接し心より感謝する
ものであります。

○本号に、次の参考文献を添付し
ご紹介致します。

前号に続き「水戸の先達」より、
水戸藩諸生派・幹部・
家老・市川三左衛門弘美、
家老・朝比奈弥太郎泰尚の2人を
ご紹介致します。

水戸市八幡町11-69

水戸殉難者恩光碑保存会

会報知恩 第四号

発行日 平成20年10月15日

発行人

編集責任者

編集委員

大森信英
前沢瑞穂
清水光夫
朝比奈光一
野沢 汎
川上有文

々々
綿引周一
編集印刷作成
事務局

（寄付の）報告

「平成 20 年 4 月 1 日～10 月 6 日迄」
慰霊祭挙行にあたり皆様より、
慰霊祭・参加会員会費（六千円也）
のほか、に次の方々に御寄付を戴きま
したのでご報告致します
ご芳志厚く御礼申し上げます。

寄付金

一金参千円也 門井 貢様
一金貳千円也 吉田政弘様
一金六千円也 門井 貢様
一金参千円也 大森泰夫様

寄付金を

江波戸辰夫様 一金五千円也
佐藤正雄様 一金五千円也
山崎 剛様 一金六千円也
市村眞一様 一金六千円也
室伏 勇様 一金六千円也
川上 清様 一金六千円也
小浜一男様 一金六千円也
池田貞雄様 一金六千円也
野沢 汎様 一金四千円也
前沢瑞穂様 一金四千円也
綿引周一様 一金四千円也
平戸吉衛様 一金四千円也
戸祭勝文様 一金四千円也

一金四千円也 朝比奈光一様
一金四千円也 朝比奈泰仁様
一金四千円也 川上有文様
一金四千円也 大森信英様
一金四千円也 大森信男様
一金四千円也 清水光夫様
一金四千円也 蔭山二郎様
一金四千円也 一沢勝男様
一金四千円也 寛陽之助様
一金万円也 朝比奈泰仁様
一金万円也 大森信英様
一金万円也 清水テル様
一金万円也 野沢 汎様
一金四千円也 戸祭頼子様

（会計報告）

平成 20 年 10 月 6 日慰霊祭の会計を
報告致します。

合計 不参加者 140000円
合計 参加者 1440000円
総合計 1580000円

茂垣勝男様には銘木・水戸の梅
家康梅、黄門しだれ梅、列公梅
を、ご寄贈戴き厚く御礼申しあげます。
ご芳志厚く御礼申し上げます
多くの方々が「銘木」の生育、開花
を楽しみに期待しています
泉下の水戸藩諸生派殉難者も喜んで
いると思います

編集後記

○本号は、特に、現地慰霊祭
（匠瑤市八日市場・松山戦争戦死
者供養行事）を特集しました。
地元の皆様の寄稿文有り難く厚く
お礼申し上げます。
少しでも、皆様のご参考になれ
ばと特集しました。

○実行委員の皆さん、慰霊祭の
実施役割分担お疲れ様でした。
全・運営責任者 朝比奈委員長
事務・企画推進・調整 川上委員
事務処理全般担当 清水委員
事務・経理相談役 清水委員
会計総括、植樹

資料、感謝状作成、前沢委員
資料、会報編集相談役、
資料・車内説明 野沢委員
受付・写真担当 綿引委員
会計・現地会計担当 大森委員
ご協力有難う御座いました。
水戸市八幡町 11-6-9
水戸殉難者恩光碑保存会
会報知恩 第四号
発行日 平成 20 年 10 月 15 日
発行人 大森信英
編集責任者 前沢瑞穂
編集事務局 川上有文

印刷・作成

事務局

編集印刷作成
事務局

編集後記

○本号は、特に、現地慰霊祭（匝瑳市八日市場・松山戦争戦死者供養行事）を特集しました。
地元の皆様の手記や寄稿文を本号に転載しご紹介させて頂きました。
少しでもご参考になれば幸甚に思います。
地元の皆様の戦死者供養の心情に接し心より感謝するものであります。
○本号に、次の参考文献を添付しご紹介致します。
前号に続き「水戸の先達」より、諸生派領袖、
家老・市川三左衛門弘美、
家老・朝比奈弥太郎泰尚の2人をご紹介いたします。

水戸殉難者恩光碑保存会
会報知恩 第四号

発行日 平成20年10月15日

発行人 大森信英

編集責任者 前沢瑞穂

編集委員 清水光夫

朝比奈光一

野沢 汎

川上有文

綿引周一

編集後記

○本号は、特に、現地慰霊祭（匝瑳市八日市場・松山戦争戦死者供養行事）を特集しました。
地元の皆様の寄稿文有り難く厚くお礼申し上げます。
少しでも、皆様のご参考になればと特集しました。

○実行委員の皆さん、慰霊祭の実施役割分担お疲れ様でした。

全・運営責任者 朝比奈委員長

事務・企画推進・調整 川上委員

事務処理全般担当

事務・経理相談役 清水委員

会計総括、植樹

資料、感謝状作成、前沢委員

資料、会報編集相談役、

資料・車内説明 野沢委員

受付・写真担当 綿引委員

会計・現地会計担当 大森委員

協力有難う御座いました。

水戸市八幡町 11-69

水戸殉難者恩光碑保存会

会報知恩 第四号

発行日 平成20年10月15日

発行人 大森信英

編集責任者 前沢瑞穂

編集事務局 川上有文

印刷・作成

事務局

諸生派が陣を敷いた所



大松庚申塚

天狗党が陣を張った所



福善寺

諸生派が最初に到着した寺



龍